

第2章 高齢者を取り巻く現状と将来推計

第1節 総人口の推計

第7期計画においては、第6期計画中の実人口を基に、団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据え、推計を行う。

推計方法としては、第5、6期計画と同様にコーホート法を用いる。

また、この推計にあたっては、通常は国勢調査人口を使用するところであるが、国際医療福祉大学の学生や黒羽刑務所の収監者数を勘案する必要があることから、「住民基本台帳人口（外国人含む。）」を採用する。

【総人口の実績と推計】

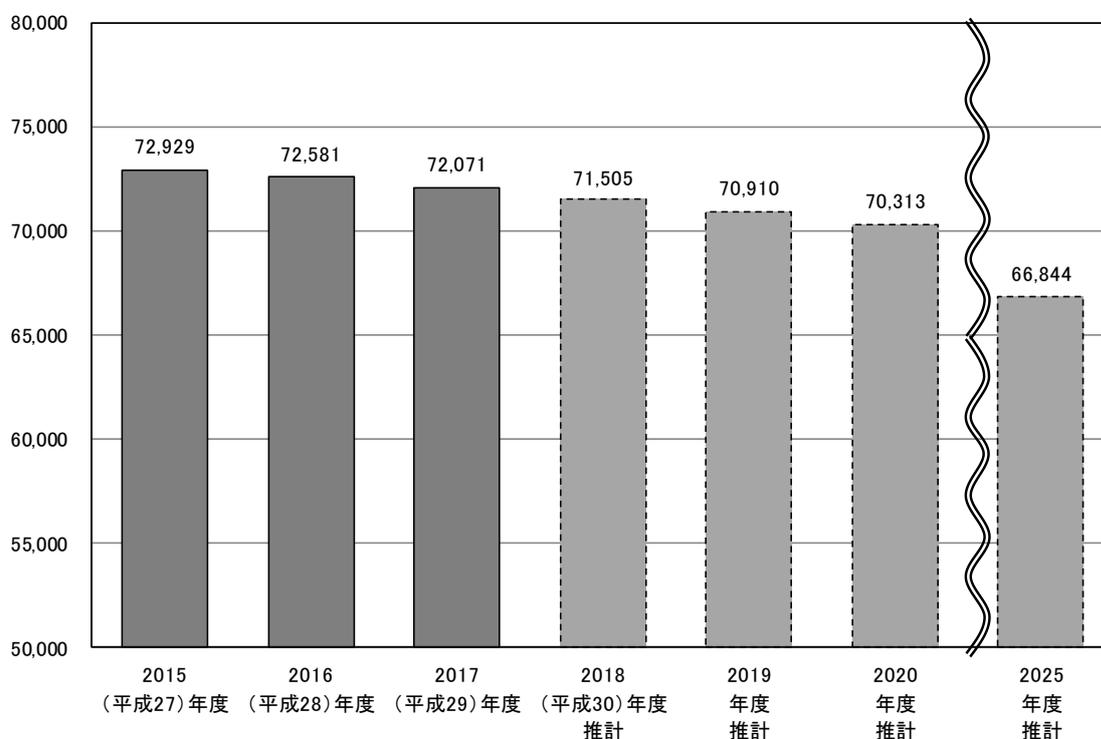
(単位:人)

項目	第6期(実績)			第7期(推計)			2025年度
	2015 (平成27) 年度	2016 (平成28) 年度	2017 (平成29) 年度	2018 (平成30) 年度	2019 年度	2020 年度	
総人口	72,929	72,581	72,071	71,505	70,910	70,313	66,844

※ 各年10月1日現在の住民基本台帳における数値での集計

【総人口の推移】

(人)



第2節 高齢者人口

1 高齢者人口の推移

第6期の計画初年度2015（平成27）年度の本市の高齢者人口は18,708人で、総人口72,929人に占める割合（高齢化率）は25.7%であった。さらに、2年後の2017（平成29）年度の高齢者は1,169人増加して19,877人、総人口は858人減少して72,071人であり、高齢化率は27.6%となった。

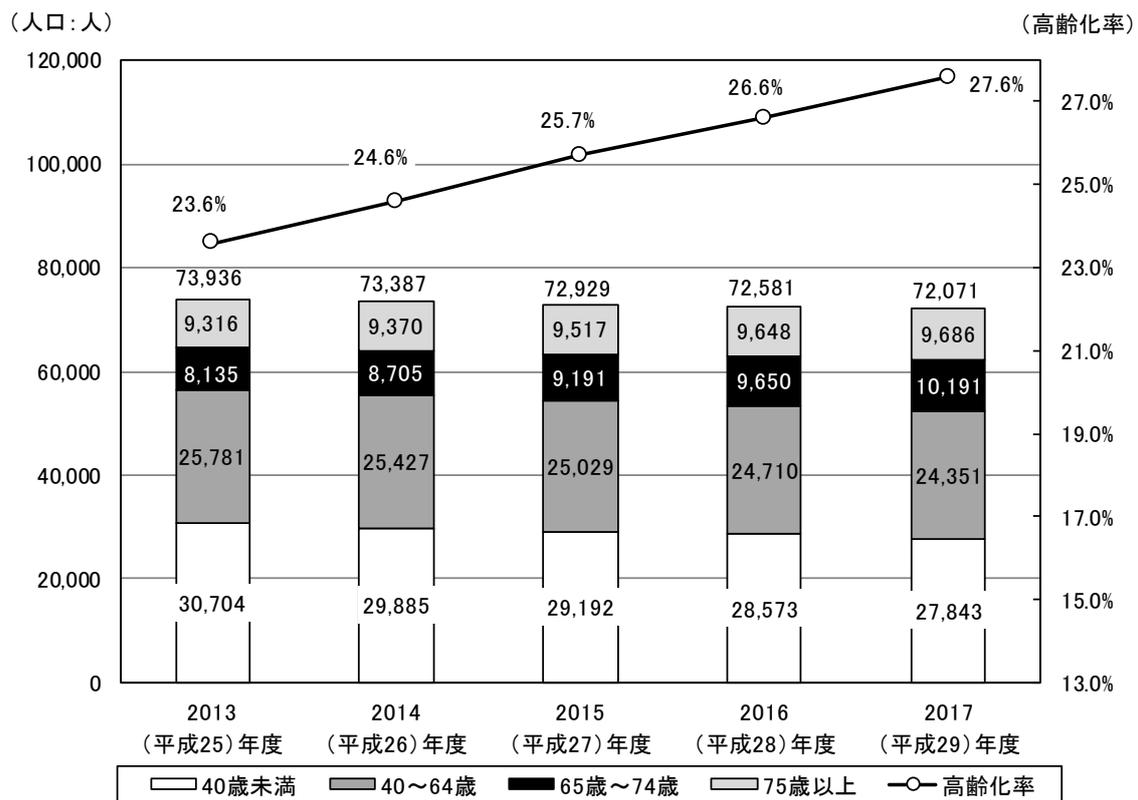
【高齢者人口と高齢化率の実績】

（単位：人）

項目	2013 （平成25） 年度	2014 （平成26） 年度	2015 （平成27） 年度	2016 （平成28） 年度	2017 （平成29） 年度
総人口	73,936	73,387	72,929	72,581	72,071
高齢者人口	17,448	18,075	18,708	19,298	19,877
高齢化率	23.6%	24.6%	25.7%	26.6%	27.6%

※ 各年10月1日現在の住民基本台帳における数値での集計

【高齢者人口年代別内訳と高齢化率の推移】



2 高齢者人口の将来推計

高齢者人口を推計するにあたっては、5歳ごとの年齢階層による推計を行った。

65～74歳までを「前期高齢者」、75歳以上を「後期高齢者」に分類すると、前期高齢者は2020年度までの推計では増加しているが、2025年度の推計をみると減少に転じている。一方、後期高齢者数は2025年度をみると、2017（平成29）年度に比べ1.16倍となり、前期高齢者数を上回ることが推定される。

また、人口ピラミッドで2020年度の推計人口を見てみると、男女ともに65歳から69歳までの人口が多くなっている。新たな高齢者像に対応できるシステムを構築するとともに、2025年度以降の団塊の世代が後期高齢者に到達することも含めた体制整備が引き続き課題となる。

【年代別高齢者人口の実績と推計】

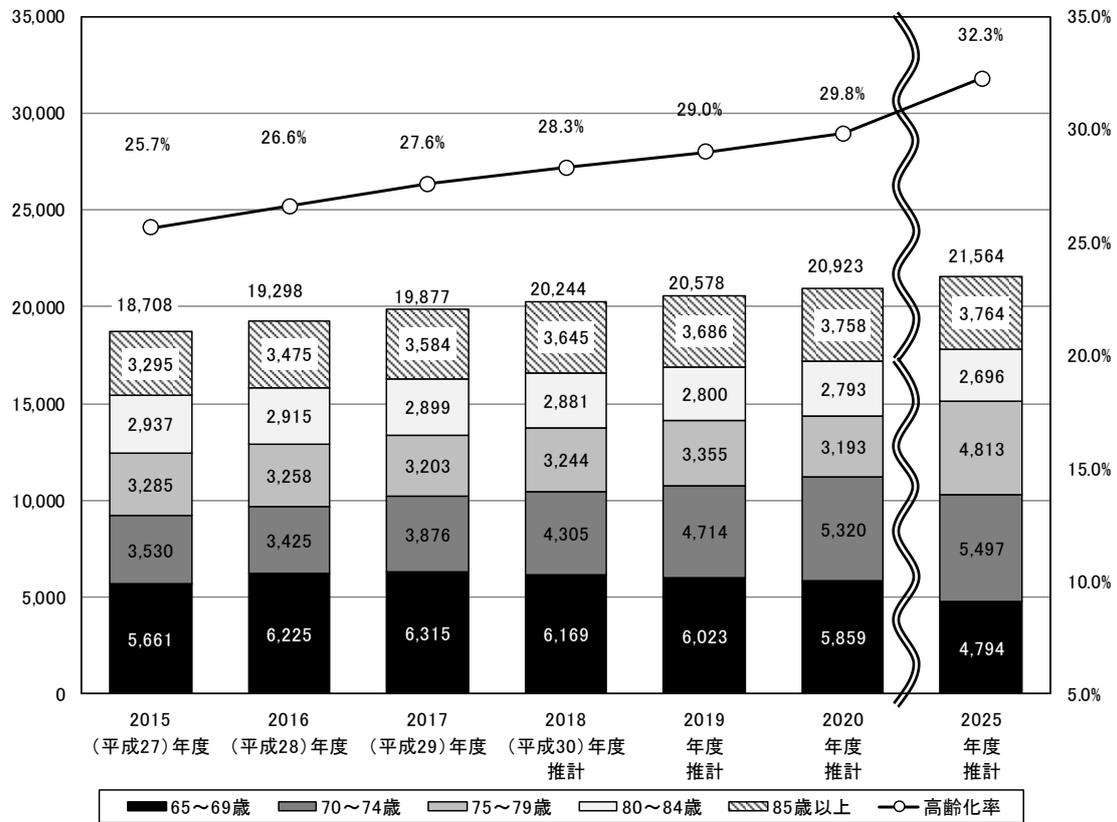
（単位：人）

項 目		2017 (平成29) 年度	2018 (平成30) 年度	2019 年度	2020 年度	2025 年度
総人口		72,071	71,505	70,910	70,313	66,844
高齢者人口合計		19,877	20,244	20,578	20,923	21,564
前期 高齢者	65～69歳	6,315	6,169	6,023	5,859	4,794
	70～74歳	3,876	4,305	4,714	5,320	5,497
	前期高齢者計	10,191	10,474	10,737	11,179	10,291
	総人口に占める割合	14.1%	14.6%	15.1%	15.9%	15.4%
後期 高齢者	75～79歳	3,203	3,244	3,355	3,193	4,813
	80～84歳	2,899	2,881	2,800	2,793	2,696
	85歳以上	3,584	3,645	3,686	3,758	3,764
	後期高齢者計	9,686	9,770	9,841	9,744	11,273
	総人口に占める割合	13.4%	13.7%	13.9%	13.9%	16.9%
高齢化率		27.6%	28.3%	29.0%	29.8%	32.3%

【高齢者人口と高齢化率の推移】

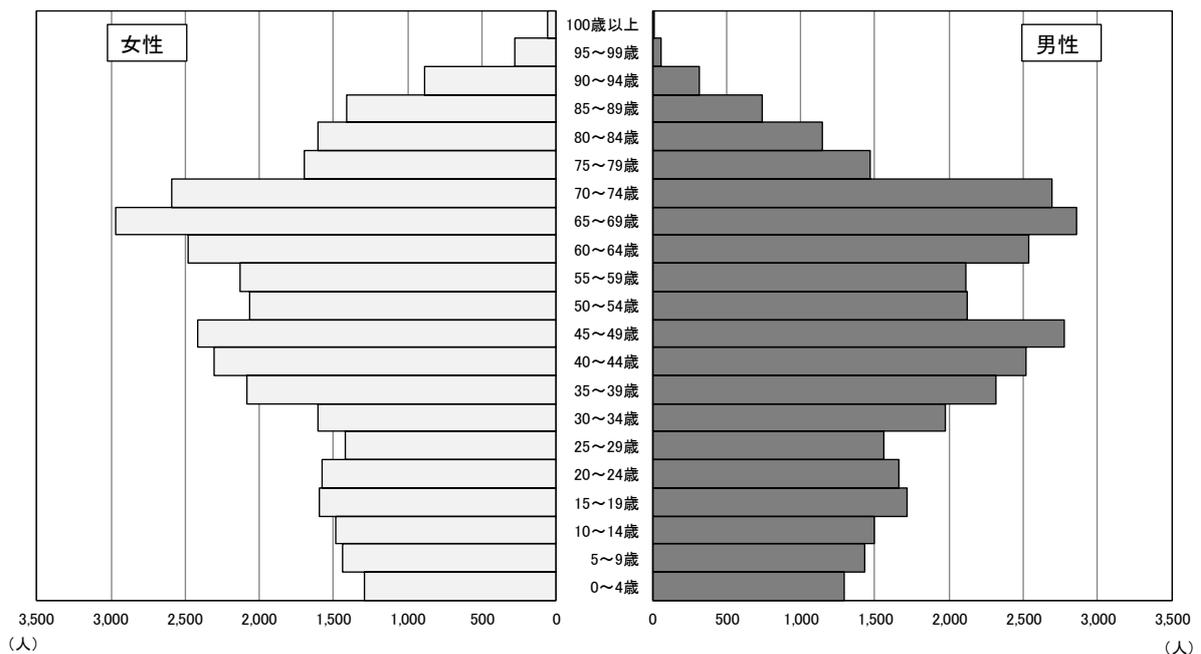
(高齢者数:人)

(高齢化率)



【人口ピラミッド】

2020年(推計)



第3節 要介護認定者の状況

1 要介護認定者の推移

2006（平成18）年より、軽度者（要支援1・2、要介護1）の大幅な増加に対応するため、介護予防を重視した体制を構築し、要介護状態になることをできる限り防ぐ『介護予防事業』、また要介護状態であっても、状態がそれ以上に悪化しないようにする『予防給付』について重点的に取り組んできた。

第6期介護保険事業計画においては、認定者数はやや増加しているが、認定率（対高齢者割合）は減少している。

また、2016（平成28）年度、2017（平成29）年度では、推計より実績が下回る結果となった。

【要介護認定者の実績】

（単位：人）

区 分	2014 (平成26) 年度	2015 (平成27) 年度		2016 (平成28) 年度		2017 (平成29) 年度	
	実 績	推 計	実 績	推 計	実 績	推 計	実 績
要支援1	472	452	481	437	491	429	433
要支援2	508	535	573	578	594	622	557
小 計	980	987	1054	1,015	1,085	1,051	990
要介護1	679	671	678	668	644	668	691
要介護2	647	707	635	773	646	842	647
要介護3	439	460	473	481	489	503	514
要介護4	474	473	462	481	498	499	534
要介護5	365	369	380	389	347	407	339
小 計	2,604	2,680	2,628	2,792	2,624	2,919	2,725
合 計	3,584	3,667	3,682	3,807	3,709	3,970	3,715
認定率	19.8%	19.7%	19.7%	19.9%	19.2%	20.2%	18.7%

※ 介護保険事業状況報告 各年9月末日現在

2 要介護認定者の年齢別内訳

次表のとおり、要介護認定者3,683人のうち、後期高齢者が88.3%で大部分を占めている。

また、前期高齢者の3.4%、後期高齢者の33.6%が要介護認定を受けており、後期高齢者の認定率が前期高齢者の認定率に比べ大幅に高いことが分かる。

【要介護認定者の年齢別内訳】

(単位：人)

項目	人口 (A)	要介護認定者			B/A (%)
		男	女	計 (B)	
第2号被保険者 (65歳未満の要介護認定者)	—	43	40	83	—
前期高齢者 (65歳から74歳まで)	10,231	168	181	349	3.4%
後期高齢者 (75歳以上)	9,672	851	2,400	3,251	33.6%
合計	19,903	1,062	2,621	3,683	—

※ 介護保険事業状況報告 2017 (平成 29) 年 10 月分

3 要介護認定者 (新規申請者) の状況

(1) 平均年齢

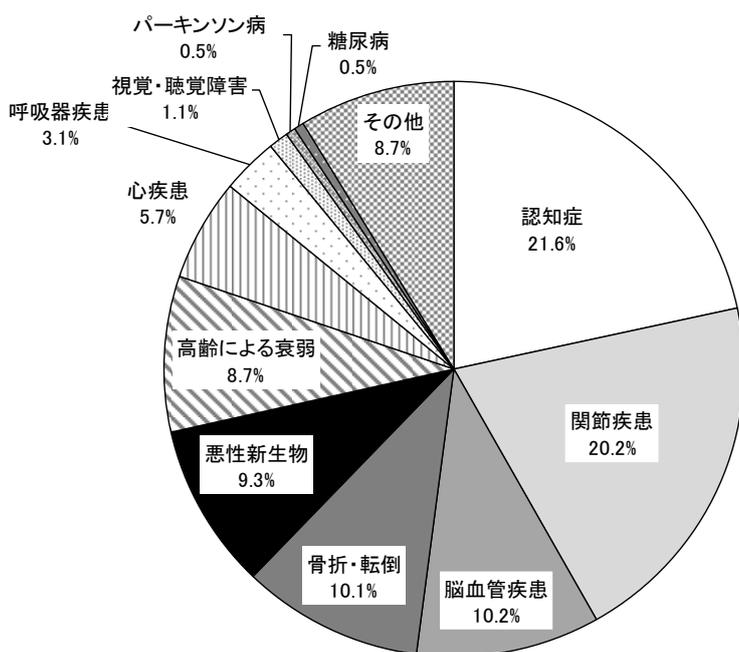
介護予防事業がスタートした 2006 (平成 18) 年度当初、第2号被保険者を除いた 65 歳以上の新規申請者の平均年齢は 78.9 歳であった。その後、2011 (平成 23) 年度は 81.5 歳と上昇したが、2014 (平成 26) 年度は 81.8 歳、2016 (平成 28) 年度は 81.9 歳となり横ばいの状態が続いている。

(2) 介護が必要になった主な原因

2015 (平成 27) 年度の新規申請者 (第2号被保険者除く) 732 人の認定情報を分析した結果、1 位が認知症、2 位が関節疾患、3 位が脳血管疾患、骨折・転倒であった。

さらに、要介護度別の分析の結果、要支援 1・2 の場合は 1 位が関節疾患、2 位が高齢による衰弱、要介護 1 から 3 までは認知症が 1 位、要介護 4・5 は脳血管疾患と悪性新生物が 1 位となっており、要介護度によって原因が異なることが確認できた。

【介護が必要となった主な原因】



※2015（平成 27）年度の介護認定審査会において新規申請を行った 732 人の認定情報分析より。

【要介護度別にみた介護が必要となった原因（上位 3 位）】

	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
総数	認知症	21.6%	関節疾患	20.2%	脳血管疾患	10.2%
要支援者計	関節疾患	34.4%	高齢による衰弱	17.7%	骨折・転倒	9.2%
要支援 1	関節疾患	30.9%	高齢による衰弱	15.2%	脳血管疾患 認知症	9.1%
要支援 2	関節疾患	38.8%	高齢による衰弱	20.9%	骨折・転倒	12.4%
要介護者計	認知症	31.2%	脳血管疾患	12.8%	悪性新生物	12.6%
要介護 1	認知症	46.3%	関節疾患	12.6%	骨折・転倒	10.3%
要介護 2	認知症	29.2%	関節疾患	18.0%	悪性新生物	13.5%
要介護 3	認知症	25.8%	骨折・転倒	17.7%	脳血管疾患	16.1%
要介護 4	脳血管疾患 悪性新生物	24.2%	骨折・転倒	13.6%	認知症	10.6%
要介護 5	脳血管疾患	28.9%	悪性新生物	23.7%	認知症 骨折・転倒	10.5%

※ 2015（平成 27）年度新規申請者 724 人の分析（非該当は含まない）

4 要介護認定者の将来推計

第7期計画期間中及び2025年度における要介護認定者の推計については、国が示した地域包括ケア「見える化」システムを用いて算出した結果、下表のとおりとなった。

【要介護認定者数の推計】

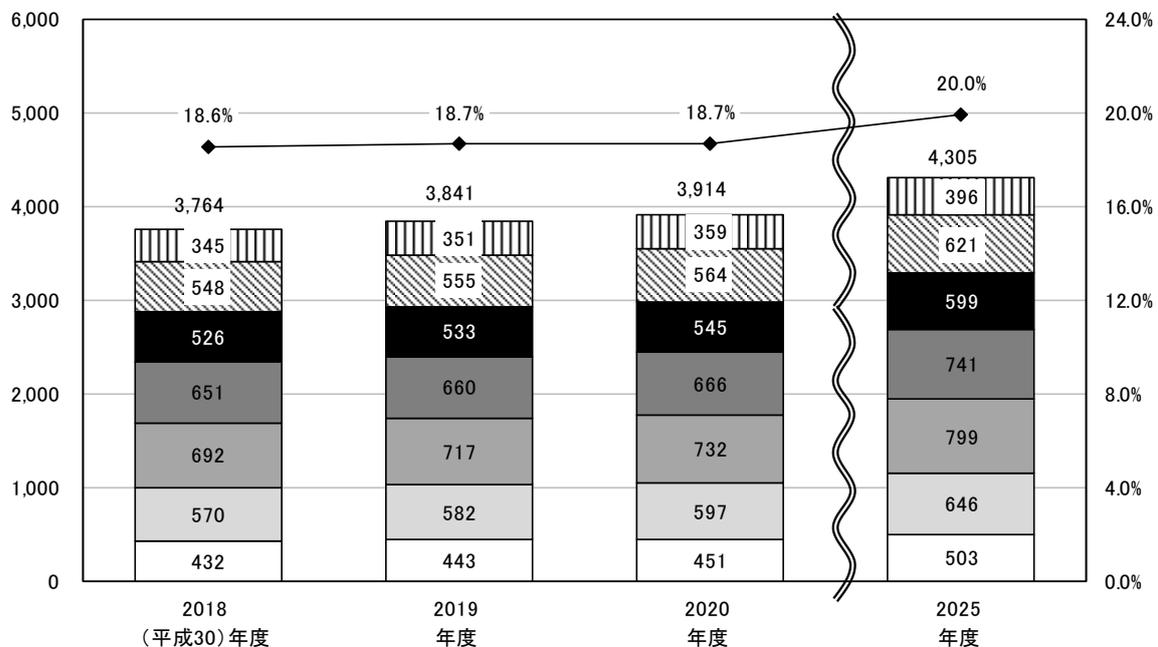
(単位:人)

区分	2018 (平成30) 年度	2019 年度	2020 年度	2025 年度
認定率	18.6%	18.7%	18.7%	20.0%
認定者合計	3,764	3,841	3,914	4,305
要支援1	432	443	451	503
要支援2	570	582	597	646
要介護1	692	717	732	799
要介護2	651	660	666	741
要介護3	526	533	545	599
要介護4	548	555	564	621
要介護5	345	351	359	396

【要介護認定者数と認定率の推移】

(要介護認定者数:人)

(認定率)



要支援1 要支援2 要介護1 要介護2 要介護3 要介護4 要介護5 ◆ 認定率